

新年あけましておめでとうございます

12 日間の年末年始をはさんだ冬休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。8 日の始業式の日には 69 名全員出席で、令和 2 年のよいスタートを切ることができました。上級生が手本となって、落ち着いた雰囲気の中で厳粛に式を行うことができました。冬休み中、事故や病気、大きなけがの情報もなく過ごせたこと、順調な学校生活のスタートが切れたことは、保護者をはじめとした子どもたちに関わる方々のご支援のおかげと改めて感謝いたします。どうもありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。



新年にあたって

校長 曾我 隆

令和の時代に入って初めての年明けとなりました。スマートフォンやコンピュータなどをはじめとした ICT（情報通信技術）の活用や AI（人工知能）の進化など、時代の流れは速く、情報はどんどん新しくなっています。一方で、少子高齢化や地域の活性化、大規模災害の発生、社会保障費の増大など様々な課題も山積しています。

上矢作町でも少子高齢化の波は大きく、令和 2 年 1 月 1 日時点での人口は 1,783 人となり、15 年前の平成 17 年 10 月の人口 2,636 人と比較すると、32.36%も減少しています。（ちなみに恵那市全体の人口減少率は 13.17%です。市内で最も人口減少率が高いのが上矢作町という状況です。）高齢化率も 49.24%（令和元年 11 月現在）とどんどん進行しています。一方で、子どもの出生数は、平成 27 年度以降 5～7 人という状況が続いており、今年度は 12 月まで 0 人という状況です。このままの状態で行くと、令和 5 年度（2023 年度）以降、上矢作小学校に複式学級ができることになります。

学校現場も昔と変わり、「安全・安心」を優先した体制に変化してきています。熱中症や豪雨災害（気象警報の発表）、水難事故、落雷事故、地震への対応や不審者、熊・サルなどによる被害防止など、子どもを取り巻く状況の中で対応しなくてはならない問題は幅広くなっているのが現状です。昨年中もこれらの問題に対しては様々な形で対応をお願いしてきました。大人が子どもたちを守っていくとともに、子どもたちにも命を守るための危機回避能力を身につけさせることが急務となっています。

そんな中で、今年 4 月より新しい学習指導要領が全面実施されます。5・6 年生に週 2 時間の外国語科（英語）が新設され、今まで実施してきた週 1 時間の外国語活動は 3・4 年生に移ります。情報社会の進展に即応したプログラミング学習もスタートします。これに伴い、高学年の授業時間数は今年度より年間で 15 時間増加します。一方で、教職員の「働き方改革」も進めなくてはなりません。さらなる超過勤務時間の削減やメンタルヘルスの推進などが求められています。限られた時間の中で新しいものを取り入れていくためには、「スクラップ＆ビルド」で、今までやってきたことを変えていかなくてはならないこともあります。これからの複雑化する未来を生きぬく子どもたちのために、何が今、子どもたちにとって必要なのかを考え、本当に必要なことを取り組んでいきたいと思えます。

子どもたちを健全に育てていくために、保護者をも含めた地域社会とさらに強く連携し、「コミュニティースクール」という地域とともにある学校として、教育を推進していきたいと考えています。令和 2 年も、今まで以上に学校の教育活動へのご理解とご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。